陸上自衛隊第14旅団広報誌

しこく

Vol. 190
2024. 9-10

今号の内容

・ 令和６年度陸上自衛隊演習
・ 旅団検閲
・ 各部隊活動
・ 隊員家族投稿（第１４通信隊）
・ キーパーソン（第１４高射特科隊）

『高松港から出発する「はくおう」』令和６年度陸上自衛隊演習での一コマ

発行所：第１４旅団司令部総務課広報班　住所：香川県善通寺市南町２丁目１－１　電話：0877-62-2311（内2256・2257）

令和６年度陸上自衛隊演習

第14旅団（旅団長　大場剛陸将補）は、令和６年度陸上自衛隊演習に参加しました。

現地への前進に先立つじ前の準備では、各駐屯地において法令教育、通信訓練、精神教育による心構えの付与、長距離の車両運行に備えた事前点検などを行いました。

その後、それぞれに計画された陸・海・空の移動手段を使用した機動展開により、配属・協同部隊を含めた増強第14旅団が集結し、第一回の作戦会議の場において大場旅団長は「共に戦おう。」と参加した隊員を鼓舞しました。

演習場に進入した各部隊は、敵の偵察衛星等の情報収集に対して企図を秘匿しつつ、第14通信隊を中心に指揮・連絡に必要なネットワーク通信を確保し、第14施設隊を中心に陣地の構築や障害を構成し防御準備を整えるとともに、第14偵察隊及び第15即応機動連隊が武装工作員の潜伏拠点となりそうな地域・地点を巡察し、潜伏した武装工作員の

情報収集及び破壊活動から防護する等、我の行動の自由を確保しました。旅団の後方支援を担任する第14後方支援隊は、演習場に到着する補給品を集積した後、速やかに各部隊に交付し継続能力の強化に努めました。

また、第14飛行隊は、予測される敵の脅威に対応するため、ヘリ散布地雷により障害を構成する等、増強第14旅団は阻止態勢を確立させました。

敵部隊は、ミサイル攻撃から侵攻を開始したが、第14高射特科隊の対空戦闘によりこれを阻むとともに、第14偵察隊及び第14情報隊から得た敵の情報に中部方面特科連隊の火力を連携させて破砕するとともに、第15即応機動連隊と第50普通科連隊が16式機動戦闘車（ＭＣＶ）の機動力を活用した近接戦闘により阻止しました。この間捕獲した被拘束者は法令に基づき第14音楽隊をもって対応する等、増強第14旅団は与えられた任務を完遂し、その実力を進化させました。

01　令和6年度旅団演習の実施

第１４旅団は、８月中旬、日本原演習場（岡山県）、１０月、北海道大演習場（北海道）において令和６年度旅団演習を行いました。

本訓練は、旅団各部隊のみならず、協同部隊の参加を得て、増強された第１４旅団としての練成訓練を行うとともに第５０普通科連隊、第１４偵察隊、第１４情報隊、第１４高射特科隊、第１４飛行隊、第１４音楽隊の訓練検閲を実施し、日頃の訓練成果を評価するとともに、その進歩向上を促すことを目的に行われました。各部隊にはそれぞれの役割と与えられる任務があり、その任務を遂行するための能力、すなわち練度の高さが第１４旅団の任務の成否に直結します。

大場旅団長は講評の場において「部隊長を核心とし、即動し所命任務を必ず達成できる部隊を目指し、より一層訓練に精励することを期待する。」と述べ、部隊長をはじめとする隊員を鼓舞激励しました。

第50普通科連隊投稿　近接戦闘の骨幹部隊として

現地における作戦指導

警戒

第一線救護

第５０普通科連隊（連隊長　水関謙作1等陸佐）は、８月中旬、日本原演習場（岡山県）において令和６年度旅団演習に参加しました。

本演習では、第１４旅団の骨幹部隊として、普通科部隊としての行動、領域横断作戦を行う部隊の防護要領及び阻止戦闘等を実施し、旅団の作戦任務達成に寄与し、これまでの練成成果による部隊練度の評価を受けました。

訓練期間中は、気温３５度・ＷＢＧＴ（暑さ指数）３１を超え、時折激しい雷雨が降る厳しい環境において、全隊員が任務達成のため真剣に訓練に臨みました。

第５０普通科連隊は、本訓練で得られた成果を踏まえ、更なる練度向上に努めます。

第１４情報隊投稿　旅団の目となれ！

命令下達を行う隊員

対空戦闘に備える隊員

収集した情報を整理する隊員

第１４情報隊（隊長　濱田安彦２等陸佐）は、８月中旬、日本原演習場（岡山県）において、第１４情報隊として初めてとなる訓練検閲を受けました。第１４情報隊は専門的技術をもって旅団の作戦を支援する唯一の情報科部隊として示された目標地域にスキャンイーグル２（無人偵察機）を活用した情報収集を行うなど旅団司令部と連携し、与えられた任務の遂行に努めました。

これまで各種訓練で培ってきた事を発揮させることができ、濱田隊長は、「猛暑の中での行動は、実に厳しく辛いものでありましたが、全隊員が奮闘してくれた結果、任務を完遂できることができました。」と隊員を激励しました。

02　第15即応機動連隊創隊7周年記念行事

徳淵連隊長による挨拶

善通寺十五聯太鼓の演奏

レンジャー隊員による懸垂降下

装備品展示

3年ぶりの記念行事！

第１５即応機動連隊（連隊長　徳淵文雄１等陸佐）は、令和６年９月１９日、善通寺駐屯地において、「第１５即応機動連隊創隊７周年記念行事」を実施しました。

記念式典開始に先立ち感謝状贈呈式が行われ、日頃の隊務運営に際し顕著な協力を頂いた方々に対して、連隊長から感謝状及び記念品を贈呈しました。

記念式典は、多数のご来賓の方々のご臨席と隊員家族を招待して行われ、ご来賓から祝辞を賜るとともに、記念式典終了後は、ご来賓の方々との記念撮影を実施しました。

引き続きアトラクションとして、善通寺十五聯太鼓演奏、装備品展示、レンジャー訓練展示や９６式装輪装甲車（ＷＡＰＣ）体験試乗を実施しました。

善通寺十五聯太鼓の力強い演奏を披露すると大きな拍手が送られ、レンジャー訓練展示では、今春レンジャーとなった隊員によるリペリングと懸垂降下の展示を行い、その戦闘技術でご来賓の方々を圧倒しました。

アトラクション終了後、ご来賓の方々との記念会食は、終始和やかなムードの中行なわれ、多くの激励のお言葉を頂き、「第１５即応機動連隊創隊７周年記念行事」は盛会のうちに終了しました。

03　高知駐屯地において記念行事実施を支援

アトラクション演奏も好評を博す

第１４音楽隊（隊長　平林誠１等陸尉）は、９月２１日、高知駐屯地において「高知駐屯地創立５８周年及び第５０普通科連隊創隊１８周年記念行事」に参加し、演奏支援を実施しました。

記念式典中の観閲式では、整斉とした行進動作での入場から始まり、厳粛な雰囲気の中で国歌吹奏を行う等、第５０普通科連隊と共に自衛隊の威容と精強さを示しました。

観閲式に引き続きグラウンド上で行われたアトラクション演奏では、マーチ「木陰の散歩道」から始まり、ラテン的なリズムが用いられた「Conquistador」、アニメのオープニングで用いられ大ヒットした「Bring-Bang-Bang-Born」、吹奏楽オリジナル曲「Camarada」の４曲を演奏しました。

どの楽曲も軽快かつ親しみやすくアレンジし、会場はたくさんの観客と一体になり大いに盛り上がりました。特に、マーチ「木陰の散歩道」では隊長が自らピッコロを演奏し、３曲目の「Bring-Bang-Bang-Born」では、ＳＮＳで話題となっている「ＢＢＢＢダンス」を隊員たちと共に披露するなど、普段とは違う一面を見せた隊長のパフォーマンスが、観客を沸かせました。

これからも四国の様々な場所で演奏を行っていきますので今後の活躍にもご期待ください！

観閲式に参列する第１４音楽隊

ＢＢＢＢダンスを踊り上げる平林１尉

04　訓練検閲の実施

創意・挑戦・非戦闘損耗※の絶無

第１４後方支援隊（隊長　渡邊修１等陸佐）は８月下旬、日本原演習場（岡山県）において第１整備中隊及び第２整備中隊に対して訓練検閲を実施しました。

本訓練検閲においては、野整備支援を行う部隊の基本的行動や我の企図を秘匿するための行動について評価しました。

第１整備中隊長　原子和也１等陸尉及び第２整備中隊長　永田大地１等陸尉の統率のもと準備を万全にして本訓練検閲に臨み、統裁官要望事項である「創意」「挑戦」「非戦闘損耗の絶無」を実践し、我の企図を秘匿しながら、故障整備・車両回収等の野整備支援を行うとともに指揮所等各種施設の開設、警戒、維持・運営、築城を実施し、任務を完遂しました。

故障した大型車両（右）を重装輪回収車（左）で回収し整備工場へ輸送

※　非戦闘損耗とは戦闘以外で発生するあらゆる種類の損失のこと。

05　自動二輪操縦集合教育の実施

シミュレーション教習

免許取得のための実習

第14偵察隊の名物教育がいよいよ始まる

第１４偵察隊（隊長　神品秀雄２等陸佐）は、９月、善通寺駐屯地において自動二輪操縦集合教育（前段）を行いました。

本教育は第１５即応機動連隊、第５０普通科連隊、第１４偵察隊、第１４施設隊の隊員を対象に行いました。

今回は普通自動二輪の免許取得が目的であり、約３週間のタイトなスケジュールで、琴平ドライビングスクールに通いつつ、駐屯地のグラウンドで練成を行いました。

一流の斥候員になるため隊員は、助教からの厳しい指導と叱咤激励を受けながら、日々練成に明け暮れ無事目的を達成することが出来ました。

今後行われる予定の後段教育は、「あらゆる地形・状況においても走破できる操縦技術を身につける」ことを目的として行います。アクセルターンやブレーキターン、低速走行などの技術を身につけ、それらの技を駆使して、どんなに険しい道も自由自在に走れる斥候員の育成を目指します。

06　飛行隊訓練を終えて【隊員所感】

設営中の整備用天幕

航空機整備陸曹として

3等陸曹　墨　大夢

私は、８月下旬、飛行隊訓練に航空機整備陸曹として参加しました。

本訓練は、部隊の基本的行動に係る能力向上を目的として実施されました。私は、当初、整備班の野外における航空機用整備天幕の開設を行いました。整備用天幕は、航空機に不具合や故障等が発生した際、いち早く航空機を整備して高可働率を維持するために必要となるものです。本天幕の開設においては、整備班先任陸曹指導の下、他の整備員と効率よく連携し、所望の成果を得ることができました。

訓練の一端を紹介しましたが、この訓練を終えて、いかなる環境や状況下でも、航空機整備を継続する重要性を再認識しました。今後もあらゆる状況においても航空機の高可動率を維持し、旅団及び飛行隊の任務遂行に寄与できるよう精進してまいります。

07　新隊員の活躍

後期教育（施設）終了。それぞれの部隊へ配置

地雷原の偵察

障害構成（地雷の埋設）

第１４施設隊（隊長　吉田正幸２等陸佐）は、７月から９月までの間、徳島駐屯地において新隊員課程後期教育（施設）を実施しました。本教育開始に際して、教育隊長である京極康弘３等陸佐の要望事項「目標を持て」のとおり、新隊員達は夏の照り付ける暑さに負けず目標を持って、施設科隊員として基礎となる施設技術の修得に励みました。

教育を終了した新隊員たちのそれぞれの部隊での活躍を期待しています。

教育を行う種浦３曹

また、本教育に班長として参加した種浦巧輝３等陸曹は「将来の部隊を担う隊員の育成に携わる使命の重要さと、即戦力として部隊の更なる精強化を図る施設科隊員を育成するため、必要な知識、技能を教育することができ、自身の今後の隊員指導の資を得ることができました。施設科の任務は陣地構築、障害構成、爆破、交通作業及び渡河作業など多岐にわたる修得項目があり、教育する側も久しぶりに教範をひらく課目もありました。そんな時は教官、助教で入念に教授予行（リハーサル）を行い、不安を解消し、教育に臨みました。特に爆破は、実爆により新隊員が緊張しないように教育方法を検討し経験を積ませ、実爆では不発弾を出すことなく、完爆させ、任務を達成することができました。この経験をふまえ部隊において後輩隊員育成に生かしていきたいです。」と本教育を振り返りました。

教育開始式

体力検定

システム通信最後の砦！暗号電信

第１４通信隊は、７月から約３か月間、善通寺駐屯地において一般陸曹候補生後期及び新隊員後期教育（暗号電信課程）を実施しました。

本教育は、第１４通信隊長（２等陸佐　脇田祐一朗）を担任官とし、新隊員前期教育を修了し、システム通信科隊員に選抜された隊員に対してシステム通信科としての基本的識能を身に付けさせることを目的として実施しました。

教育内容は自衛官として必要な体力練成をはじめシステム通信の概要等の座学教育の他、モールス信号での手動電信、数字を文字に変換（又はその逆）する暗号化作業を日々繰り返し練成し、システム通信の最後の砦として通信を継続させるため練度を向上させています。新隊員はこれらの技術を身に付け部隊の戦力としてシステム通信科隊員の第１歩を踏み出します。

銃及び防護装備品貸与

第１４特殊武器防護隊（隊長　西原清隆３等陸佐）は、９月中旬、今年度第１４特殊武器防護隊に配属された新隊員２名に対し、８９式小銃及び防護装備品の貸与式を行いました。

新隊員教育を終えて、これから部隊勤務となる２名に「戦士の魂」である８９式小銃と化学手※として必要不可欠な化学防護衣及び個人用防護装備を貸与し、化学科隊員としての自覚を持たせました。

これから、２名が一人前の化学手となれるよう部隊で練成していきます。

※　化学手とは化学科部隊として、除染、発煙、焼夷、対焼夷等に必要な器材の操作を実施する。

←　銃の貸与

↑防護装備品の貸与

08　令和6年度対空実射訓練の実施

一人ひとりが確実に

第１４高射特科隊（隊長　渡辺大嗣２等陸佐）は、８月、静内対空射撃場（北海道）で実施された令和６年度対空実射訓練に参加しました。

本訓練は９３式近距離地対空誘導弾（近ＳＡＭ）を保有する全国の高射特科部隊を対象に、陣地占領から対空射撃に至る部隊の一連の基本的行動及び隊員の基礎動作を演練するために行う貴重な実射訓練です。

小隊長（岡部孝３等陸尉）を核心とし、年度当初から段階的かつ計画的に練成して実射訓練に臨みました。３人一組で行う近ＳＡＭの射撃は、隊員一人ひとりが与えられた任務を確実に行うことと３人の連携が必要になります。今回初めて訓練に参加した佐久間新陸士長は、昨年の訓練メンバーに選ばれず悔しい思いをしました。「今回の訓練参加にあたり、去年選ばれなかった悔しさをバネに、日々の訓練を怠らず、先輩方に相談などを行い、指導を頂きながら捜索手※として任務達成に貢献することができました。」と話しました。

第14高射特科隊は、引き続き部隊練成を実施し、高射特科隊員として更なる練度の向上を目指します。

第14旅団の活動記録（訓練）

発射の様子

発射班長による命令下達

射撃準備を行う佐久間士長

※　捜索手とは、射撃時において目標の捜索を行い発見時には発射班長に速やかに方向等を報告する。

09　継続的な練成訓練の実施

法令教育の受講

ＣＣＶ操縦前点検

通信器材の取り扱い

車両点検

偽装網展張要領

一つ一つ着実に！

第１４旅団司令部付隊（隊長　菅貴光３等陸佐）は、訓練や災害派遣において適切に対処できるよう基礎的な練成訓練を継続的に行っています。この練成訓練は「作戦行動や災害派遣において予想される事象」に対し、事前に練成訓練を行うことによって隊員の不安感を無くして、任務に集中できる態勢を整えることを目的としています。

８２式指揮通信車（ＣＣＶ）の操縦訓練を皮切りに、車両の点検・整備、通信器材の取扱い、偽装、法令教育、負傷者発生時に被害を最小限にするための第一線救護等の訓練を実施して、隊員の練度向上を図りました。

今後も、司令部付隊は基礎を疎かにすることなく、「いざ」という時に隊員と装備品の能力を最大限発揮して任務が遂行できるよう「一つ一つ着実に」練度向上を図ってまいります。

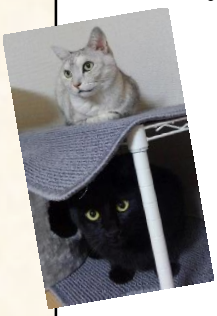
隊員投稿

「うち（家）の大黒柱」

第14通信隊　准陸尉　川端　秀樹
妻　由美子さん

うち（家）の大黒柱は平成30年３月に群馬県から香川県に異動し、現在は香川県善通寺市にある第14通信隊で約７年間の勤務、単身赴任生活をしています。今では大黒柱がいない生活にも慣れ現在は大学生の次男と猫２匹で自宅を守っています。東京で働いている長男、長女が仕事の休みの時に群馬県に帰省し、元気な顔を見せに帰ってくる程度ですが、楽しく家族団らんの生活をしています。大黒柱は休暇を活用し、長時間かけて帰省します。帰省すると私は仕事、次男は大学に行ってるので猫２匹と遊んでいるようです。一年に一回の帰省ですが猫も大黒柱の顔を忘れず遊んでもらっているようで「憶えてくれてたよ」と自慢げに話します。帰省時に大黒柱にお願いしていることは排水溝掃除、家の周囲の草むしり、猫の世話です。

・特に排水溝清掃ですが「汚い・悪臭」ですがしっかりやってくれています。「さすが自衛官だなあ」と感心しています。草むしりは手際よくやってくれて助かっています。定年退職まで残り一年となり香川県で退職することとなりそうですがその後は一緒に暮らせるようになると思います。身体に気を付けて頑張って下さい。



対空戦闘の司令塔

AIR DEFENSE XIV ONE SHOT ONE KILL MATSUYAMA

KEYPERSON 14th Brigade

今回は、対空作戦の骨幹部隊である、第１４高射特科隊で情報伝達手として活躍する佐々木３曹にスポットを当てていきます。

佐々木３曹に聞きました！
日頃どのようなお仕事をされていますか？

私は、愛媛県松山市に所在する第14高射特科隊に所属しており、主に対空戦闘指揮装置の情報伝達手として勤務しています。情報伝達手は、対空戦闘で様々な対空火器をコントロールする役職であり、この役職がないと円滑な目標情報の伝達、目標の割当等が出来なくなり、任務遂行に非常に影響します。その重要な役職を任されていることを誇りに思い、これからも日々努力を怠ることなく、練度向上のため訓練に取り組み、任務遂行に邁進していきたいと思います。

周りの方に聞きました！
佐々木３曹はどんな人ですか？

性格は明るく、先輩・後輩分け隔てなく誰とでも仲が良く、少しお茶目なところもあり、普段はおちゃらけている事もありますが、訓練・演習になると情報伝達手として抜群の能力を発揮し、対空戦闘指揮装置の操作だけでなく、小隊長及び班長の補佐も実施し、部隊の任務達成に大きく寄与しています。

第14高射特科隊　堀尾３曹

第14高射特科隊で勤務する隊員は陸曹になると千葉県にある高射学校の「対空指揮情報課程」に入校し、陸曹として必要な資質の涵養及び操作員として必要な知識と技能を修得します。部隊で練成訓練を実施し、日々練度向上に勤しむ佐々木３曹の真剣な眼差しからは、対空射撃・対空戦闘に必要な情報を迅速・正確に処理伝達する意気込みがうかがえます。

隊員紹介

部隊 ▸ 第14高射特科隊
氏名 ▸ 佐々木　泉（ささき　いずみ）
出身 ▸ 島根県
趣味 ▸ バイク🏍
好きな言葉 ▸ 状況終了
嫌いな言葉 ▸ 陣地変換

ONE PHOTO

陸曹候補生２次試験

陸曹への新たなステップを目指す１次試験を突破した若き隊員たちが日ごろの練成成果を発揮し試験に臨みました。２次試験はリーダーシップを発揮する分隊教練、陸曹となるために必要な知識を評価する術科試験、面接試験、体力検定を実施しました。

中隊長等集合訓練

第１４旅団各部隊の中隊長は、大場旅団長の訓示を受けた後に「部隊を育成するために自分がやるべきこと」について部隊の特性を踏まえて意見を出し合うなど、真剣な面持ちで討議を行いました。

戦傷治療集合訓練

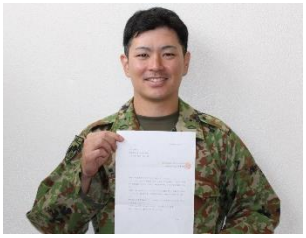
第一戦救護について理解を深めるとともに、知識・技能の向上に努めました。第一線救護とは衛生に携わる隊員のみならず全隊員が持ちうるべき能力であり今後も旅団全体の能力向上を図ります。

四国地区殉職隊員追悼式

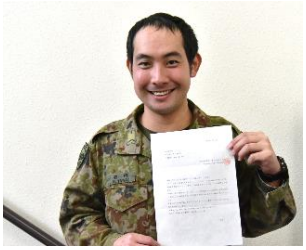
国の存立を担う崇高な職務に殉ぜられた５１柱の御霊に対しご冥福をお祈りいたしました。

善行隊員の紹介

第14高射特科隊
嶋田吉成３等陸曹



第14飛行隊
谷内晋３等陸曹



第14高射特科隊に所属する嶋田吉成３等陸曹と第14飛行隊に所属する谷内晋３等陸曹は、演習参加のため、大洗港（茨城県）から「さんふらわあ」に乗船中のところ３歳の子供が机の角で頭を打ち血を流す事態が発生。

「お客様の中に医療従事関係者の方はいらっしゃいますか」という船内アナウンスと周囲からの呼びかけにより駆け付けた２名は速やかに船内の医療箱を確認し、消毒、ガーゼと包帯により止血を施し患部を冷やすとともに手際よく痛み止めの錠剤を砕き子供に飲ませ「吐き気や目の周りが黒くまたは白くなるようならお知らせください。」と伝えました。最後に病院へ行くように勧め颯爽とその場を立ち去り事なきを得ました。

准看護師の資格を持つ嶋田３曹と谷内３曹の迅速かつ適切な処置に対し、「株式会社商船三井さんふらわあ」から感謝状が贈られました。

四国の護り

第14旅団では、HP・X・Facebookにおいて活動状況を発信しています。
また、HPにおいては第14旅団の紹介やイベント情報などを掲載しております。

HP　X　Facebook

第１４旅団　検　索

四国内　イベントスケジュール

第14旅団は、様々なイベントに装備品展示や音楽演奏などで参加しています！
皆様のご来場お待ちしております♪

12/1

レインボーコンサート

高知工科大学香美キャンパスで第１４音楽隊が音楽演奏を行います♪

12/5

ふれ愛コンサートｉｎ愛媛

松山市総合コミュニティセンターで第１４音楽隊が音楽演奏を行います♪

12/14

巡回演奏

芸西村民会館で第１４音楽隊が音楽演奏し、第１５即応機動連隊が装備品展示を行います！！

12/15

しこちゅ～すまいるフェスティバル２０２４

しこちゅ～ホールで第１５即応機動連隊が装備品展示を行います！

12/19

クリスマスコンサート

高知県県民文化ホールで第１４音楽隊が音楽演奏を行います♪

色の内訳（開催県）

- 青：徳島県
- 緑：香川県
- オレンジ：愛媛県
- 赤：高知県

※　急遽変更となる場合がございます。ご了承ください。